

4月4日の米国株大幅続落について

目先は悲観一色だが、中長期投資の観点では過度の悲観は不要

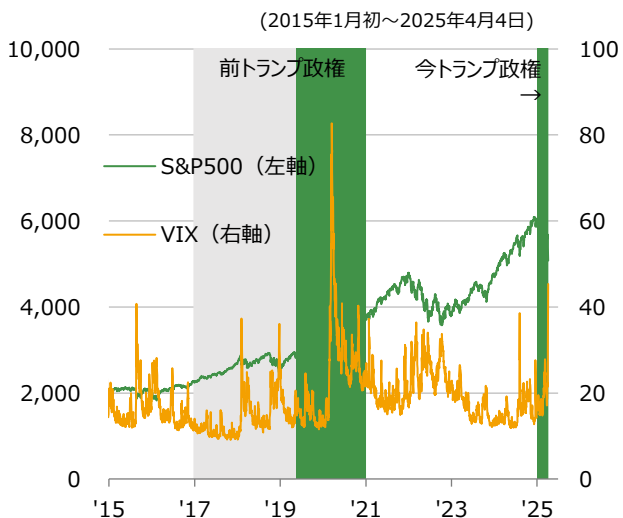
2025年4月7日

報復関税の連鎖による景気後退懸念が強まり、米国株は大幅続落

4日の米株式市場では主要株価指数が大幅続落。S&P500は前日比▲6.0%の5,074となり、24年5月以来の水準に下落しました。ナスダック総合指数は同▲5.8%と、昨年12月につけた史上最高値からの下落率が▲22.7%となり、いわゆる「弱気相場」入りとなりました。相互関税の余波は4日も収まらず、この日、中国政府が米国への報復関税を発表。報復の連鎖による世界的な景気後退への懸念が高まりました。加えて、パウエルFRB議長が講演で、関税政策が想定を大幅に上回ったことで、高インフレと成長鈍化の両面でリスクが高まっていると指摘する一方、金融政策については様子見姿勢を見せたことが、利下げに期待する市場の失望を買いました。

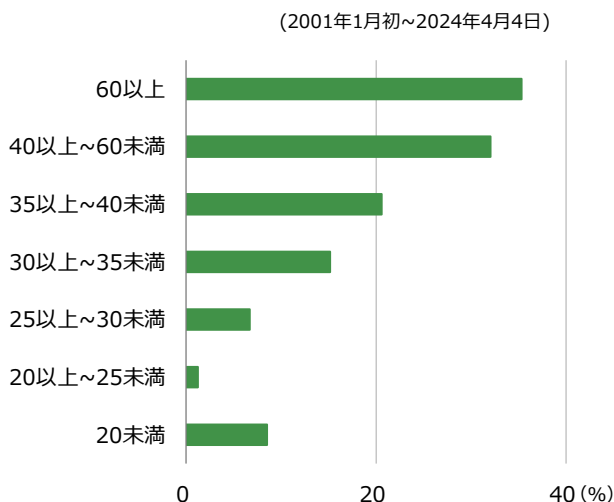
現在のところ相互関税の発表は不確実性の低下に繋がっておらず、むしろ景気後退懸念を呼び込む形となっています。株式市場の不安心理を示す恐怖指数VIXは45を超え、20年4月以来の水準まで急上昇しています。一方、恐怖心にかられ、投資家がパニック売りを行う場合、多くの株式は本来の価値に比べて売られすぎとなります。過去のVIX急騰の際は、パニックが過ぎれば、日柄調整を経て、株価は大きく上昇しました(図表2)。当面は神経質な相場展開が予想されますが、9日の相互関税上乗せ分適用までに各国による交渉によって関税が低下する、あるいはトランプ減税への期待が高まる、といった材料をきっかけに相場が底入れする可能性を視野に入れることも必要と思われます。

図表1 S&P500とVIXの推移



(出所) ブルームバーグより大和アセット作成

図表2 VIXの水準と1年後のS&P500平均騰落率



(出所) ブルームバーグより大和アセット作成

当資料のお取扱いにおけるご注意

- 当資料は投資判断の参考となる情報提供を目的として大和アセットマネジメント株式会社が作成したものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資信託のお申込みにあたっては、販売会社よりお渡りする「投資信託説明書(交付目論見書)」の内容を必ずご確認ください。
- 当資料は信頼できると考えられる情報源から作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。運用実績などの記載内容は過去の実績であり、将来の成果を示唆・保証するものではありません。記載内容は資料作成時点のものであり、予告なく変更されることがあります。また、記載する指数・統計資料等の知的所有権、その他一切の権利はその発行者および許諾者に帰属します。
- 当資料の中で個別企業名が記載されている場合、それらはあくまでも参考のために掲載したものであり、各企業の推奨を目的とするものではありません。また、ファンドに今後組み入れることを、示唆・保証するものではありません。

大和アセットマネジメント

Daiwa Asset Management